令和３年度　天草市立佐伊津小学校　学校評価書

１　学校関係者評価委員（学校運営協議会委員）　１１名

２　学校関係者評価

学校教育目標「主体性・協働性・創造性を身につけた佐伊津っ子の育成」達成のためにこの１年間取り組んできたことを，「人権教育の精神に立った学校づくり」「さわやか」「いっしょけんめい」「つよさ」に分類した３３の評価項目において児童，保護者，教職員に４段階（４：よくできた，３：できた，２：あまりできなかった１：できなかった）で自己評価してもらった。さらに，学校関係者の評価と重ね，ご意見をいただき，考察を行った。

（１）人権教育の精神に立った学校づくり

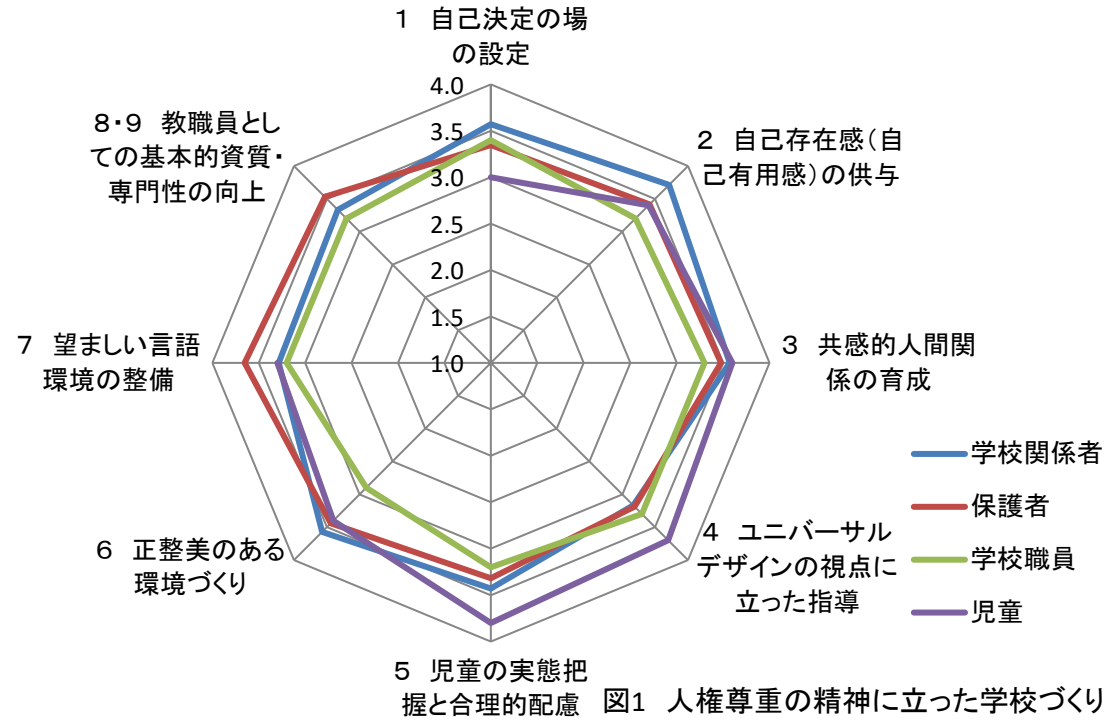

図1　人権尊重の精神に立った学校づくり

１自己決定の場の設定「学校は，授業や学級に自己決定の場（自分のことは自分で決める）が設けられているか」，２自己存在感（自己有用感）の供与「教師は，児童に自己存在感（自己有用感）（やればできるという気持ち）を感じさせているか」においては，授業参観，佐伊津小教育会議などでの児童の姿から評価していただいたと考える。

特別支援教育の推進において，４ユニバーサルデザインの視点に立った指導，５児童の実態把握と合理的配慮では，児童の得意や良さを見いだすように努めユニバーサルデザインを意識した授業を心がける教師が増えてきた。また，天草教育事務所の「８つのチェックリスト」をもとに，教師自ら授業の振り返りを行い，授業力向上に努めている。

６正整美のある環境作り「学校は，校舎内外が整理整頓され，望ましい教育環境を保っているか」については，広大な校地の草刈りや校舎の老朽化から，なかなか手が行き届かず不十分なところもあるが，可能な限り安全管理や整理整頓に努めている。

（２）「さわやか」に関すること

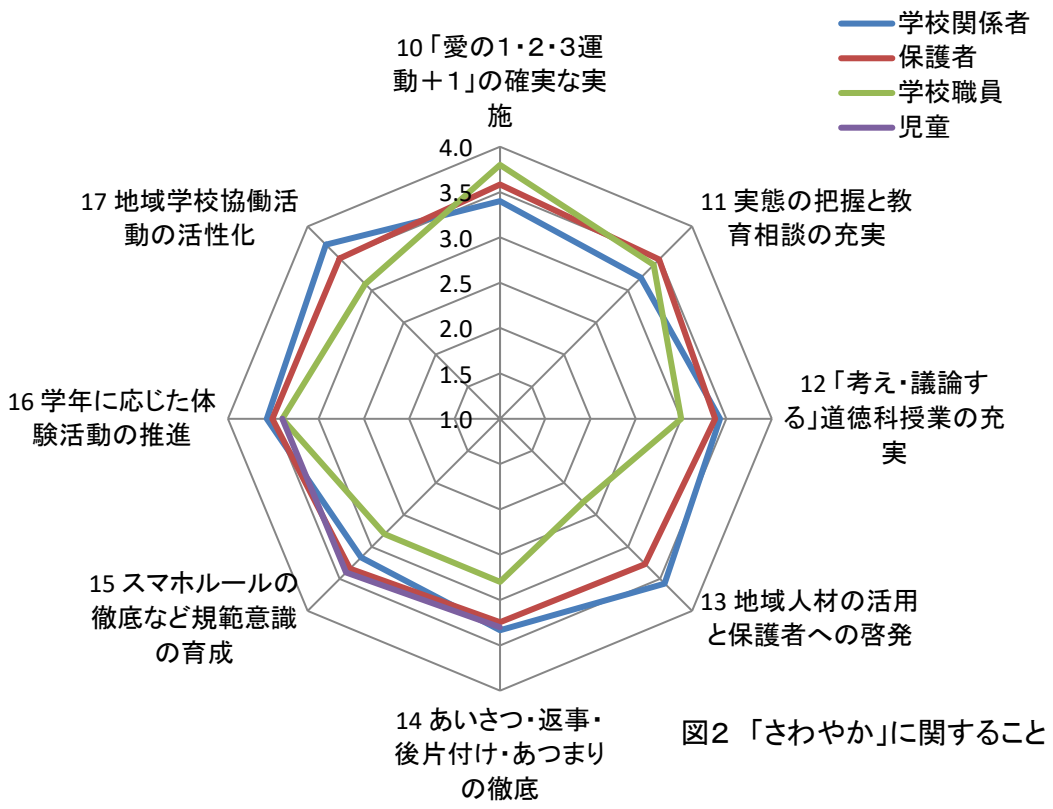

図2 「さわやか」に関すること

いじめ･不登校の未然防止と早期発見，早期対応において，10「愛の１・２・３運動＋１」の確実な実施，11実態の把握と教育相談の実施に努めた。電話連絡や家庭訪問等を行い家庭とつながり，職員間の連携を図り，組織で対応してきた。今後地域とも連携を図りながら，取り組んでいきたい。

道徳教育の充実において，新型コロナウィルス感染拡大防止のため，地域人材の活用がなかなかできず，また，そのことについての家庭への啓発もできなかった。14あいさつ・返事・後片付け・あつまりの徹底では，「あいさつ」や「返事」の指導を心情に訴える形で行ってきた。児童自身もこのことを課題ととらえ，佐伊津小教育会議で取組について発表し，課題解決に向けて取り組んでいるところである。集合時の態度については，なかなか全校で集まることができなかったが，学級で集団行動の意識を高めてもらい，効果的に指導を行った。

17地域学校協働活動の活性化に向けて，コロナ禍においても，めあてを明確にもたせ，佐伊津地域の自然や文化，地域人材とふれあい，体験したりできる学びの場を工夫していきたい。

（３）「いっしょけんめい」に関すること

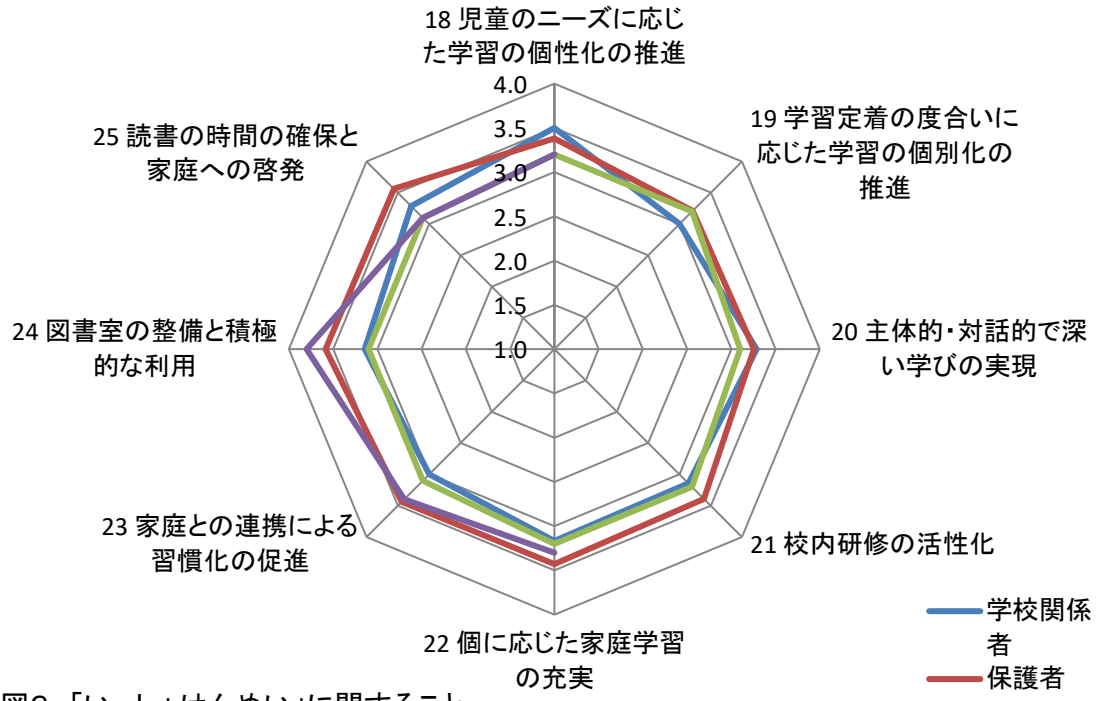

図３「いっしょけんめい」に関すること

18，19個別最適な学びと協働的な学びの保障において，児童の個々の実態を把握し教材や指導方法を工夫し，学習意欲を引き出すように努めてきた。児童の「分かる・できる」を保障した授業が展開されるよう，導入や課題提示の工夫，一斉の指示では理解ができにくい児童についての支援・指導を行うようにしている。また，22，23家庭学習について，家庭と連携しながら，習慣化に向けて取り組んでいる。

24，25図書室の整備と積極的な利用については，図書担当や児童の図書委員会によって利用しやすいように工夫され，児童の読書意欲の向上につながっている。

学校運営協議会が開かれる時には，合わせて授業参観を行っているが，学校関係者の方々から，児童の学びに向かう姿や授業におけるタブレットの活用において，期待と評価をいただいている。

（４）「つよさ」に関すること

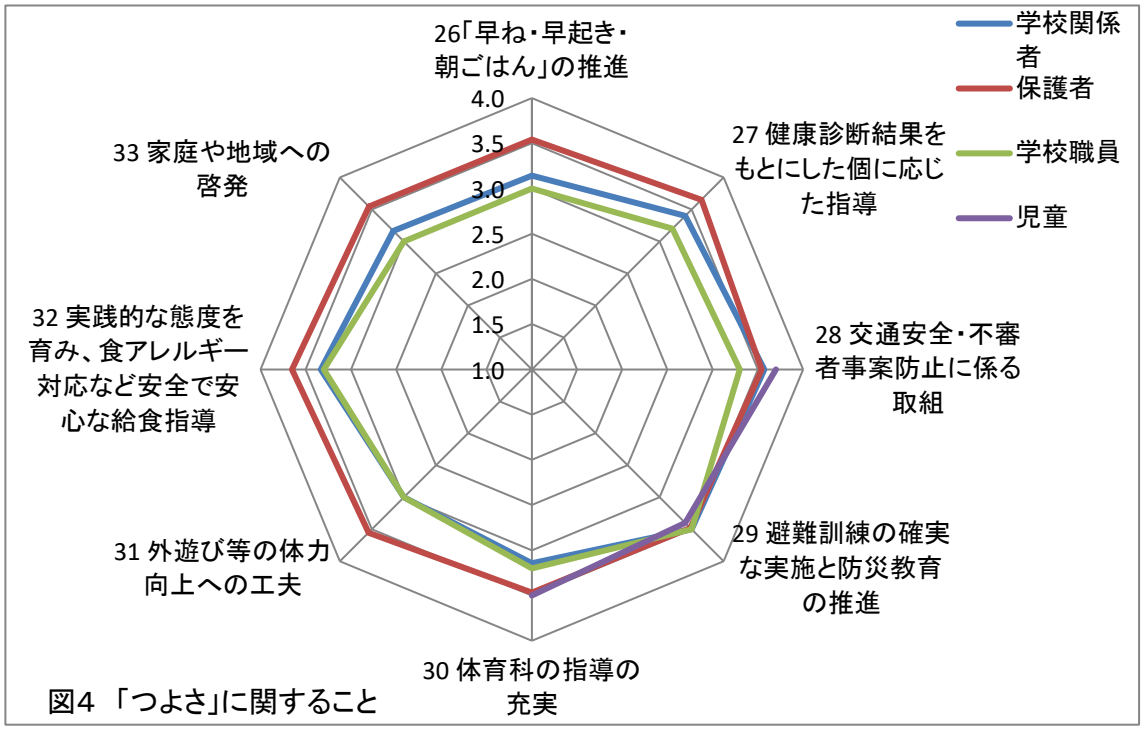

図4 「つよさ」に関すること

全体的に児童や保護者の評価が高いが，コロナ禍において思うようにできなかったことがあることから，学校職員の自己評価が低い。26.27における健康教育の推進や30，31における体力の向上では，特に開きがあるが，コロナ禍でもできることを工夫しながら取り組んできた結果，児童や保護者の高い評価につながったと考える。32.33における食育の推進においては，現状が落ち着いてきたら，地域での体験活動等を取り入れ，家庭や地域に発信しながら食育の推進に努めていきたいと考える。

3　来年度の重点取組（学校評価を踏まえた今後の方向性）

全体を通して，学校関係者から本校の教育活動を大いに評価していただいていると考える。学力向上が課題の学年もあるが，主体的に学び，よりよい自分，よりよい学校に向けて努力できる児童ばかりである。保護者は，学校の教育活動にとても協力的である。

学校運営協議会に「佐伊津小教育会議」を位置づけ，児童が主体となって学校の課題を解決しようと取り組み，それに対して運営協議会の委員のみなさんからご意見とアドバイスをいただき，取組を継続している。今回の取組において，「（あいさつについて）ポスターは，もう少し目立つようなものを（再度）作成してみたらどうか」「地域の公民館や商店等にもはったらどうか」「（子どもの）部会毎の取り組みを家庭にもっと知らせたらどうか」等のご意見もいただいている。

来年度も，学校運営協議会のみなさんのお力を借りながら，児童の「主体性・協働性・創造性」を育むために，地域のみなさんとともに佐伊津の子ども達を育てていきたい。さらに，児童が発信元となって，地域貢献できるような実践力を育てていきたい。また，学校教育の基盤となる人権尊重の精神に立った学校づくりのため，職員の人権意識を高め，人権感覚を磨くための取組を展開したい。